

冬の存とり

ペルトーベルの皇帝が演説されている

千九百二十年の作だそうだが

ペルトーベールとさくとかなり昔のようは

思っていたがそうではな

私の金子れ、百年あまり前だ

百年はついにこの向の出来ごとだ

このよう存びアノ協奏曲が全手れ、存んで

すこいのひとこと

時代をこえて何かを念しどが、のりけ  
天才

だが、ですまうれな

才能、ラス、つくりあがる力だ

このよう存人木いよこと何  
人物は、大さ方

力があふし、し、だと思うが  
それを、残さす

人は、少く、たれ、川、存り

あ、こ、が、れ、乙、り、よ、せ、め、て、く、い、の、存、り、人、を、と、と

思う、が、これ、又、思う、だ、か

朝の、ひと、時、いい、メ、ロ、ヂ、イ、を、き、く、だ、か、で

よ、い、者、が、た、な、よ

外は、あ、だ、冬、の、あ、ど、り、小、さ、く、み、を、れ、が、ぶ、つ、て

いる

朝氣がぬいと一日中 その予定でいたい

アトアトの工の片づかぬ残っていら

アトしりこぐも ほこりでもよこれり

かまづば厚しの エアセイも そろそろ、だが

にのこりば厚えんじ

今日をすこしはり

2022  
4/3